

四谷の

千枚田だより



第 223 号



四谷の千枚田

地域振興協議会総会

総会は三月十八日、新城市開発センター（鳳来）農林漁業研修室で午後二時から行われた。

冒頭に、小山会長は「四谷の千枚田地域振興協議会」は令和三年二月十二日に設立、総会はコロナ禍のため書面開催で行われた。同年四月十六日、国の棚田地域振興計画に認定された。認定されたことにより国会議員超党派の大きなご理解を得て、農林水産省の他に総務省、文部科学省、国土交通省、環境省などの支援も可能になった。

四谷の千枚田を核とした棚田の保全継承、村づくりなど、今後活用できるものがあれば皆さんと共に検討していきたい。

いづれにしても、四谷の千枚田地域振興協議会は今日が初めての顔合わせの会議（総会）であり、収束の見えないコロナ禍の会合となるので、スムーズな進行をお願いしたいと挨拶。

議事（事務局 渡邊より説明）

- (1) 令和三年度事業報告
- (2) 令和四年度事業計画

報告事項

(1) ディスカバー農山漁村（むら）の宝 小山舜二個人部門に選定受賞
 (2) 第二十七回（令和四年度）全国棚田（千枚田）サミットが滋賀県高島市で九月三十日から十月二日に開催予定。概要添付
 (3) 大人の勉強会「歴史と継承」令和三年九月十九日、名古屋ちくさ座でコロナ禍のため小山舜二動画出演。同ソニーストア名古屋で千枚田写真展の開催。意見交換会

加藤徳夫課長補佐から「農道、ふれあい広場等の施設整備から二十年を経過し、老朽化が進んでいる。」再整備の検討を提案された。

会長は、四谷の千枚田は農家があつての千枚田であるから、皆さんのご協力で保全、継承を継続してゆきたいと説き、総会は無事、終了した。

会員メンバー

会長 千枚田保存会会長 小山舜二
 副会長 四谷集落協定代表 村雲伸
 一委員 四谷区区长 今泉勝男
 法人国内米の粉伝統食文化推進ネットワーク理事長 鈴木正敏・鈴木晋平 横浜ゴム（株）新城工場業務課 長 廣川一八（欠席） チームTAK

〇佐々木すゑの（代理出席 伊藤純子）愛知東農業協同組合組合員課 課長 小山幸浩（欠席）公益財団法人農林業公社しんしろ事務局 長 河合吉夫（欠席）愛知県新城設楽農林水産事務所農政課 主任 岩井仁志 愛知県新城設楽農林水産事務所 建設課 主任 山邊達也（代理出席 課長 補佐 加藤徳夫）新城市産業振興部 農業課 課長 安藤映臣 事務局 新城市 鳳来総合支所 地域課 課長 松井康浩 副課長 金田浩司 主任 渡邊昭治

認定 四谷の千枚田

「つなぐ棚田遺産」

ふるさとへの誇りを未来へ



（既報）選定された二百七十一団体は、その棚田を含めて地域振興に関わる取り組みを行う団体として、令和四年三月二十五日、農林水産大臣により認定が行われた。

認定証授与式は新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑み、オンラインで、記念写真は農林水産大臣、農村振興局長、選定委員会委員長と合成写真に納まった。

なお、「四谷の千枚田」の認定授与式は新城市役所において行われた。

地域活性化伝道師

内閣府から四月一日付で地域活性化伝道師（地域コミュニティ、集落再生・農林水産業・観光交流・環境）に小山舜二は引き続き登録された。

地域活性化伝道師
小山 舜二 殿

平素は、地域の活性化のためご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。
 今般、地方創生の本格展開に向けた取組が全国各地で進められているところ、専門家による指導、助言が求められております。
 貴殿におかれましては、これまで培われてこられた専門知識を活かし、「地域活性化伝道師」として、全国の地方公共団体等が抱える様々な課題の解決に向けた取組に対し、是非ともご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

登録期間	令和4年4月1日から 令和5年9月30日まで
------	---------------------------

内閣府 地方創生推進事務局長
青木 由行

伝道師の役割は、地域からの相談に対し、適切な助言や取り組み事例の紹介を行うことができるスペシャリストとして、地域の課題解決に向けた助言、指導。内閣府や地方公共団体、地域からの派遣対応など。

奥三河パワートレイル

四月十日、第七回奥三河パワートレイルが開催された。

四谷の千枚田「ふれあい広場」がエイドステーションに指定され、保存会が母体となり、地域住民の協力を仰ぎ、特Aにランクされた棚田米「ミネアサヒ」のおにぎりと減塩の梅干し、無農薬の冷茶が気温二十七℃の中を走るランナーには好評であった。また、ランナーの体力を危惧、湧き水のシャワーを設置、全身に浴びせる姿は微笑ましくも、喜ばれた。

四谷エイド(四谷の千枚田)に到達したランナーは眼下に見下ろす「四谷の千枚田」の展望に感嘆。おかげで、リタイアも多かった。



大会前の四月七日には横浜ゴム新築工場の社員による沿道の清掃活動が行われた。感謝。

新入・幹部社員の研修受け入れ

四月六日、横浜ゴム新築工場新入幹部社員(新人十八名、幹部十二名)研修が四谷の千枚田を会場に行われた。

コロナ禍のため、今回の研修は飲食の伴わない十三時三十分から開催。新城市下江市長から「皆さんの若いエネルギーが会社の発展に、また、新城市に幸せな家庭を築いていただくことを願います。まずは、おめでとうございます。」と歓迎挨拶。今回の研修は、幹部を含めた研修でもあることから吉野係長と秋元

千年の杜PJリーダーを講師に小山がアドバイザーとして、多様性に富んだ四谷の千枚田の説明を行ないながら「ふれあい広場」に到達。新社員は桜満開のふれあい広場からの展望に驚嘆。十日に開催されるパワートレの清掃、整備活動に汗を流していただいた。

交流会では愛知県新城設楽農林水産事務所建設課小河路課長から作業道やふれあい広場等の施設整備等について説明がなされた。新人社員一人ひとりがお立ち台に上り、社会人第一歩の豊富を語った。また、幹部社員も自らを語り、檄を飛ばした。池上副工場長から研修に於ける社員の心得や、保存会にお礼の



挨拶を頂き、研修を終了した。当日の出席者(保存会)

高橋孝行 小山秀夫 夏目宏一
松下誠 田中幸夫 柴田賢治郎
小山舜二

農業研修生訪問

三月三十日、地域活性化にも努める新城市の鈴木達也さん(くらし・ビジネス・サポートセンター長)はセネガル(西アフリカ)の農業実習生二名と訪れ、千枚田のコメ作りについて研修を行った。研修生は山形大学にも留学、特に中山間地の農業手法の習得に熱心で原田英史(ふるさと指導員)とともに棚田の水管理等について三河弁で対応した。



発行 令和四年四月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二